レース名	日付	クラス	場所	コース	展開	想定馬場	ポイント
佐賀記念	2019/2/11	JpnIII	佐賀	2000m	ハイペース	重	能力比較

枠	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	父	父系統	母父	母父系統	能力	騎手	適性	展開	総合評価	期待値	印	結果
1	1	テーオーエナジー	牡4	57	岩田	カネヒキリ	サンデー系	Crafty Prospector	ミスプロ系	A	B	A	B	A	B	◎	
2	2	リーゼントロック	牡8	56	松岡	ダイワメジャー	サンデー系	A.P. Indy	ナスルーラ系	C	C	C	C	C	C		
3	3	カガノカリスマ	牡7	56	渡辺	ロージズインメイ	ヘイロー系	ブライアンズタイム	ロベルト系	D	C	D	D	D	D		
4	4	アスカノロマン	牡8	58	太宰	アグネスデジタル	ミスプロ系	タバスコキャット	ノーザン系	C	C	B	B	C	B	△1	
5	5	キクノソル	牡9	56	岡部	キングカメハメハ	ミスプロ系	ジェニュイン	サンデー系	C	B	B	B	B	B	△2	
6	6	スーパーノヴァ	牡7	56	兒島	サウスヴィグラス	ミスプロ系	アサティス	ノーザン系	D	B	B	D	C	C		
	7	ヒラボクラターシュ	牡4	55	山本聡	キンシャサノキセキ	サンデー系	ワイルドラッシュ	アイスカペイド系	B	A	B	B	B	B	○	
7	8	エイシンニシパ	牡6	56	吉村	ワイルドラッシュ	アイスカペイド系	アグネスデジタル	ミスプロ系	C	A	B	B	B	B	△3	
	9	メイショウスミトモ	牡8	58	古川	ゴールドアリュール	サンデー系	アジュディケーティング	ノーザン系	C	C	C	C	C	C		
8	10	グレイトパール	牡6	57	鮫島克	キングカメハメハ	ミスプロ系	デヒア	ノーザン系	B	A	B	B	B	B	▲	
	11	スーパージェット	牡4	55	山口	カネヒキリ	サンデー系	ダンシングブレーヴ	ノーザン系	D	B	B	C	C	C		

隊列図

テーオ
ヒラボ
エイシ　アスカ
グレイ　リーゼ
スージ　キクノ
メイシ　スーノ
カガノ

ハイペース

見解

現在の古馬ダートグレード路線を語る上で欠かせないのは、現４歳世代の存在。同世代はＪＲＡの古馬ダートグレードで出走すれば、２着以内に入るという状況が続いている。地方に目を向けても白山大賞典でグリムが勝利して以降、南部杯でルヴァンスレーヴ、名古屋グランプリでチュウワウィザード、東京大賞典でオメガパフュームが優勝。現４歳世代は出走すれば、必ず２着以内に好走している（１月の川崎記念には出走がなかった）。年の佐賀記念ではＪＲＡから生きのいい４歳勢が２頭出走。まずはこの２頭の取り扱いが重要になるレースだろう。それでは予想にいきましょう。

本命は再び軌道に乗った**テーオーエナジー**。昨年、無謀な初芝での日本ダービー挑戦以降、リズムがやや狂っていたが、ＪＢＣクラシックで負けて強しの競馬を見せると、師走ステークス→ポルックスステークスと連勝。（以下省略）

ラップタイム

回顧

次走狙い馬

枠	馬番	馬名	印	評価	結果	回顧
1	1	テーオーエナジー	◎	師走ステークス→ポルックスステークスと連勝。２戦ともオープン特別とはいえ、相手は重賞並みだった。本馬がダートグレードレベルに達しているのは言わずもがなだろう。		
2	2	リーゼントロック		ノーチャンスとはいえないが、明らかにピークを過ぎた戦績。外目からスムーズな先行策を打ってこそで、２枠２番はマイナスだろう。		
3	3	カガノカリスマ		前走川崎記念で６着に健闘したが、勝ち馬ミツバから4.4秒も離されていた。参加するだけだろう。		
4	4	アスカノロマン	△1	ピークを完全に過ぎたものの、前走東海ステークスでは内からしぶとく伸びて５着に健闘。勝ち馬には完敗だったものの、３着スマハマから0.5秒差なら悪くない。勝ち負けはともかく３着候補には入れてもいいだろう。		
5	5	キクノソル	△2	地方移籍後、大崩れなく走っている堅実派。勝ちに行きそうなエイシンニシパに対し、こちらは気楽に乗れそうで、前のテーオーエナジーを追いかけた馬が失速したところ、漁夫の利的に３着に上がる可能性はあるだろう。		
6	6	スーパーノヴァ		近走は地元馬同士でも分が悪いレースが続いている。苦戦必至だろう。		
	7	ヒラボクラターシュ	○	レパードステークスで本命を打った時は15頭立ての10番人気と全くの伏兵だったが、その後にオープン特別で２勝を挙げて本格化を証明。前走チャンピオンズカップは２番手追走から早々と失速してしまったが、ダート馬らしいダート馬なので上りの速い競馬に対応できなかった面がある。		
7	8	エイシンニシパ	△3	４走前の姫山菊花賞ではＪＢＣクラシック９着と健闘していたタガノゴールドと一騎打ちを演じており、能力はＪＲＡのオープンクラスでも通用すると見てよさそう。さすがに勝ち負けは厳しくても馬券圏内ならチャンスがあっていい。		
	9	メイショウスミトモ		淡白な走りが続いており、さすがにピークを過ぎたと判断して良さそう。積極的に狙える要素がない。		
8	10	グレイトパール	▲	佐賀に移籍後の２戦は確かに相手に恵まれた面があったものの、前走雷山賞では２分８秒２の好時計で圧勝。過去の佐賀記念の勝ち時計と比較しても勝ち負けレベルに達しており、それも馬なりのままマークしたのだから字面以上に評価していいだろう。		
	11	スーパージェット		佐賀の４歳最強馬だが、さすがにダートグレードでは荷が重いか。前走雷山賞ではグレイトパールに全くついていけなかった。		